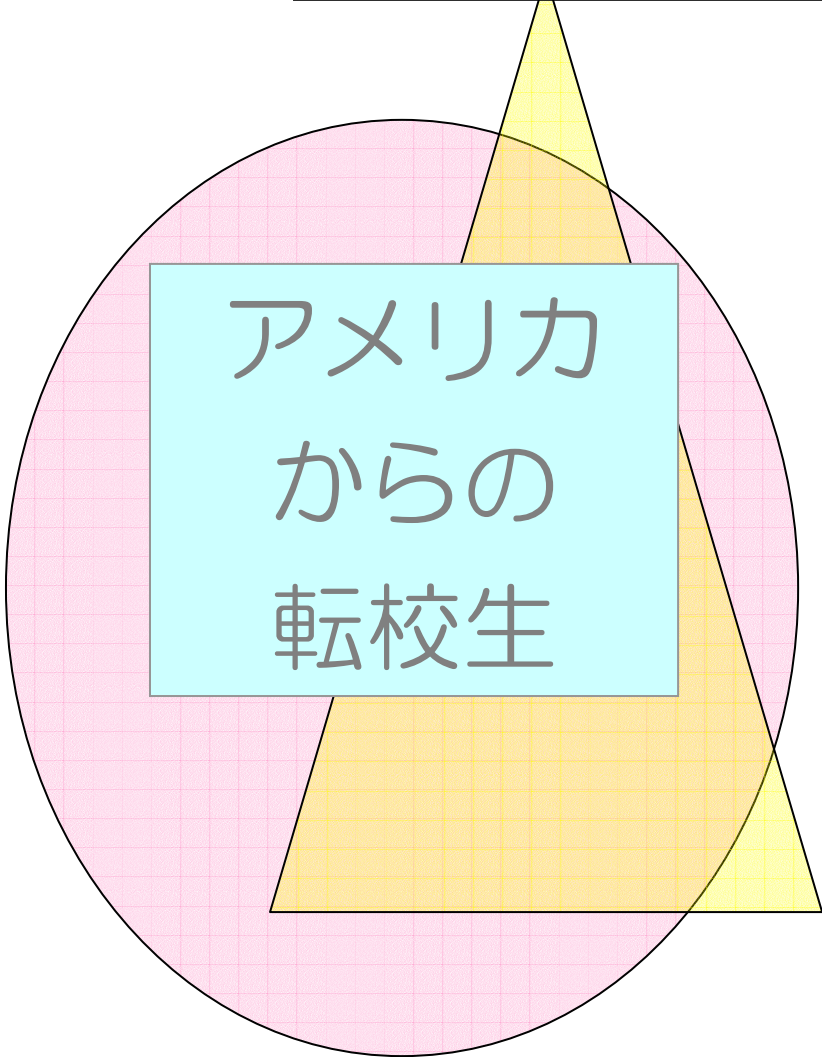


人権創作劇台本

照明・音響付



アメリカ
からの
転校生

熊野市立飛鳥小学校

ここは、熊野市飛鳥町大又。

昔から、清流大又川と共に生きてきた。

国道42号沿いに点在する集落は200世帯あまり、人口500人弱の山村である。

飛鳥小学校は、児童数20名の小さな学校である。大又川に面しており、春になるとカジカガエルの澄んだ鳴き声につつまれる。

そんな飛鳥小学校に転校生がやってくるという。しかも、アメリカからくるという。

外国人と一緒に生活したことのない飛鳥の子ども達。子ども達は、転校生を別世界の人間のように思い、上手に心を通わせることができない。言葉が通じないこともあって、近づこうとするデイビッドから逃げ回り、なかなか仲良くなれない。

そんな時、事件が起こる。

大又川を散歩していたデイビッドは、急におなかの調子が悪くなる。一生懸命トイレを探す、見つからない。

通り合わせた子ども達は、相変わらず逃げ回り、気持ちが伝わらない。

そこへ、おじいさんとおばあさんが通りかかる。

二人は、しゃがみこんだデイビッドに近づき、話しかける。

デイビッドの様子から二人は、何をしたいかを知る。

おばあさんは、『言葉なんかわからなくても気持ちは通じる』という。

子ども達は、おばあさんの言葉から、本当に大事なことは何かを考える。

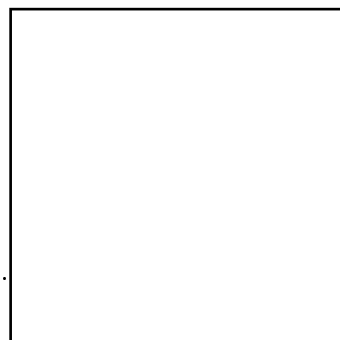
登場人物

子どもたち

あゆみ
えり
さや
あゆみ
ゆうや
りょうた

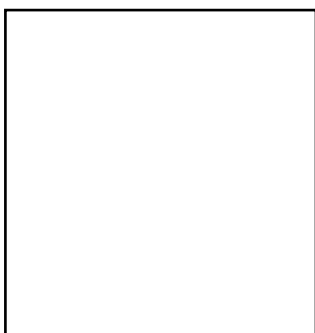


けん
あづさ
のりひろ
ともゆき
ありか



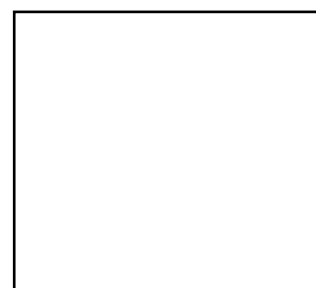
みつのり
みずき

ゆたか
みづき
ゆうき



さゆり
ひとみ

みれい
まさひと.....



特別出演

校 長
おばあさん
教 頭

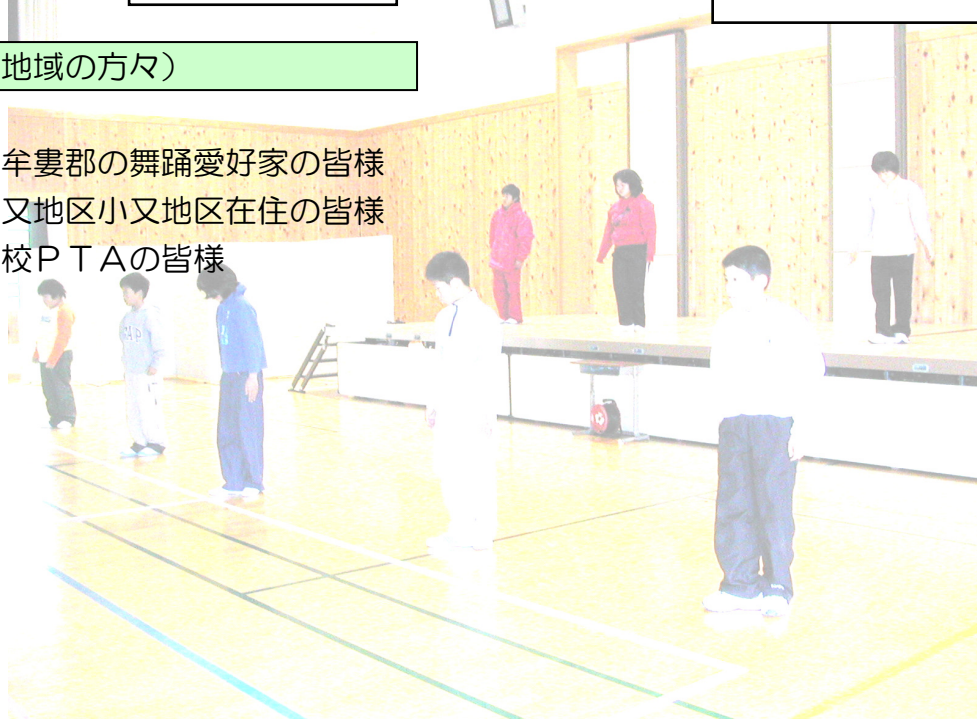


おじいさん
デイビッド
先 生



友情出演（地域の方々）

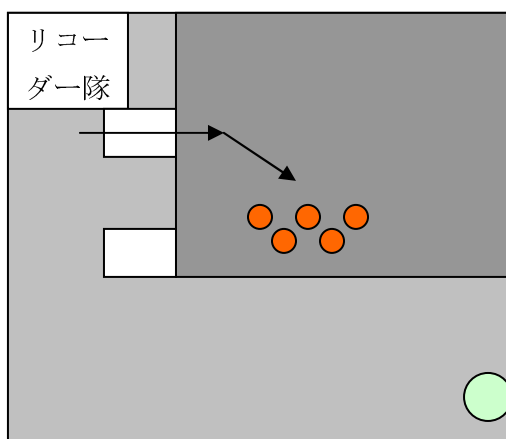
熊野市南牟婁郡の舞踊愛好家の皆様
飛鳥町大又地区小又地区在住の皆様
飛鳥小学校PTAの皆様



オープニング

大又川のせせらぎの音が、聞こえて
カジカガエルの澄んだ鳴き声が、遠

合唱隊…… 上手から登場
リコーダー隊…… 5秒遅れて、下
指揮者（教頭）……リコーダー隊と



アリーナ天井照明 ON

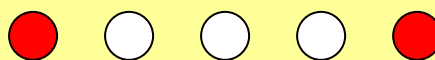
パソコンのカジカの音準備

役者準備確認

アリーナ天井照明を1秒間隔で、
4・3・2・1とOFF

カジカの音 フェードイン(3秒後)

照明 両サイド ON



カジカの音 10秒後

合唱隊・リコーダー隊登場

照明 全部 ON

合唱隊・リコーダー隊 位置につく

カジカの音 フェードアウト

合唱隊、リコーダー隊が位置についたら、**カジカの声フェードアウト**

『ふるさとの』合唱（3番まで）

ふるさとの2番から『パフ』のリコーダー演奏（2番まで）

……… 大きく、小さく互いを意識しながら、やがて、小さく………

児童が退場しはじめたら
照明は、センター1つを残し
サイドの照明を順番に消す

1年3年4年……上手下手に分かれて退場

5年6年……下手へ退場

第1幕 飛鳥小学校ホールでの2学期始業式

1 場 各教室での会話



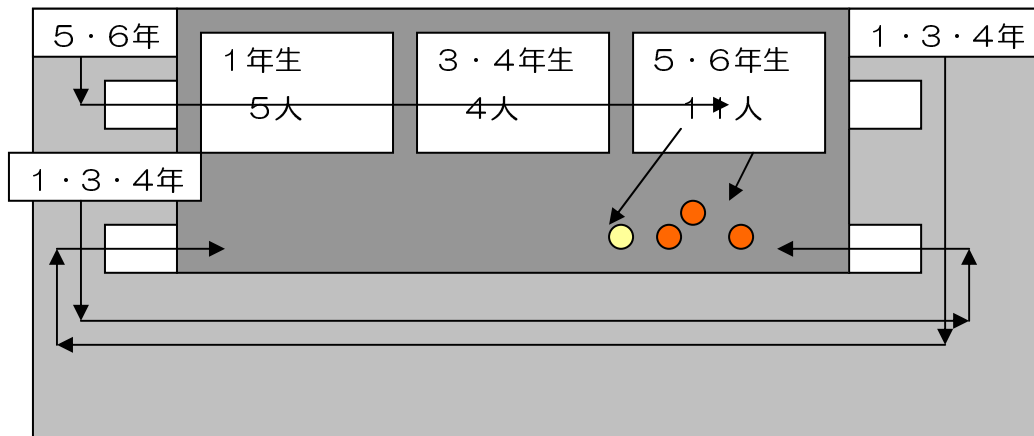
1・3・4年…上手下手から登場する。
舞台前を通過、下手上手外階段から舞台へ上がる。

上手下手から、元気よく歌いながら登場（でんでんむしのリズムで）
今日から2学期 うれしいな おー！ （ふりむいて 両手をあげる）
みんなと遊べるうれしいな おー！ （ふりむいて 両手をあげる）
しゅくだいできたよ ばっちりだ！ （みんなに見せながら）

…… くりかえしながら 舞台へ ……

1・3・4年が、舞台にあがる。
5・6年生が、夏休みの宿題をかかえて、下手中階段から、登場。
直接舞台へ上がる。5・6年、車座になって話し込む。

あゆみ・けん・えり、立って、舞台前へ。



あゆみ 『工作、なにつくった。ぼくは、これにしたんさー。』

工作进行をみんなに見せる。

けん 『わー、素晴らしいイス。どこで作ったん。』

あゆみ 『紀の国の工作教室へ行ったんさ。いいでしょう。
ほっほっほっ』

えり 『ほんまやね。ええねえ。私は、これ。』
習字を見せる。

春になると

高4が、輪から走り出て習字を見る。

あづさ 『じょうずやねー。うまいねー！』

高5が、輪から走り出て高4の下手へ並び習字を見せる。

さや 『私も習字をかいたんさ。』

学校のそばの

高1・高2・高3・高4が、のぞきこむ。

あづさ 『うわー！じょうずやー！』

あづさ じょーずやー じょーずやー じょーずやー じょーずやー（ド）
 あゆみ じょーずやー じょーずやー じょーずやー（ミ）
 け ん じょーずやー じょーずやー（ソ）
 え り じょーずやー（ド）

最後は、長くのばす。（４部ハーモニー）

のりひろが、走り出てさやのとなりへ並ぶ。

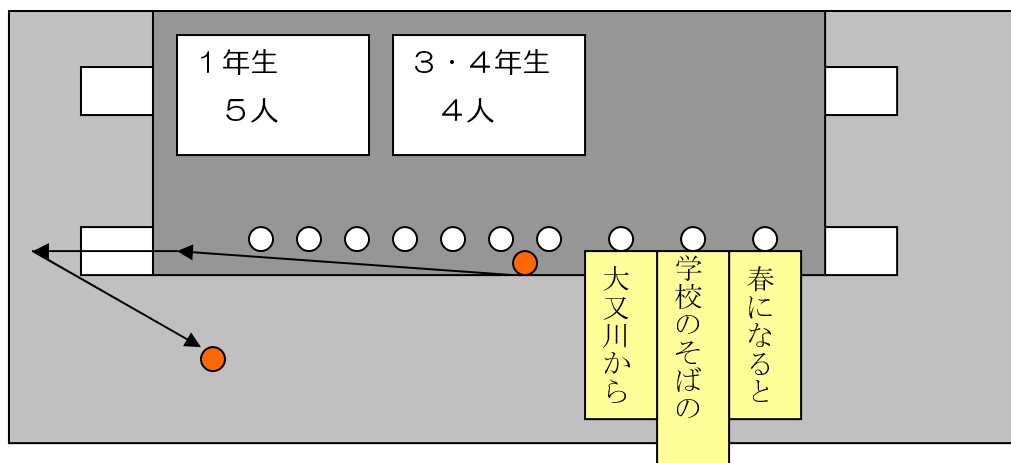
のりひろ 『ぼくのは、これ！』

大又川から

あづさ 『すごーい！みんなじょうずやねえ！』

あゆみ・ともゆき・ゆうや・ありか・りょうた・あゆみ・けん
 が、走り出て下手に並ぶ。まだ、習字は見せない。

あづさは、舞台前へ回り込む。



高学年１０人が並んだら、習字を高く上げながら一人ずつ読む。
 のりひろからは、習字をみせて、間をおいて読む。

あづさの合図で習字を見せ、声に出す。

えり	春になると
さや	学校のそばの
のりひろ	大又川から
あゆみ（久）	カジカガエルの
ともゆき	鳴き声が
ゆうや	聞こえてくる
ありか	いつまでも
りょうた	清流のままで
あゆみ	わたしたちの
けん	大又川

あづさは、舞台前からみんなの習字を見て、拍手をする。

あづさ 『上手やねえ。うまいねえ。』

高学年は、はじめの位置へもどる。

中学年、舞台中央へ進む。

みつのり 『宿題、今日までだったよねえ。』

さゆり 『そうやよ。やってないん。』

みつのり （だまってしょんぼりうなずく。）

みずき 『先生におこられるよ。』

ひとみ 『そうやよ。ろうかにたたされるよ。バケツもって。』

みつのり 『えー。こまったなあ。どうしよう。（周りをうろうろする）』

中学年、戻る。

低学年、舞台中央へ進む。

ゆたか 『ぼくさー、岸ぶちでおよいだよー！』

みれい 『わたしだって、およいだわ。』

みづき 『魚、いっぱいおったよねー！』

まさひと 『ぼくらー、あゆ、つかまえたよ。』

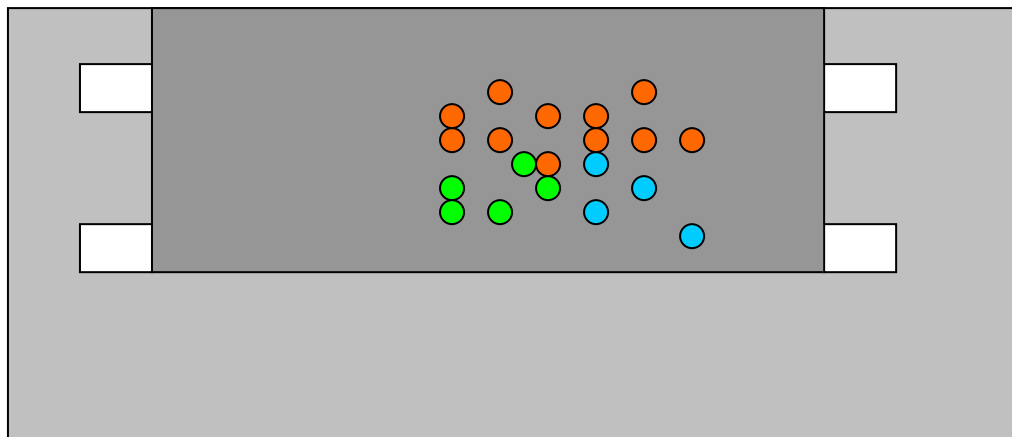
ゆうき 『えー、すごいやん。なんびきくらい？』

チャイムの音
影アナで、教頭先生が放送する。

校内放送

…… 今から、2学期の始業式を始めます。ホールへ集まりましょう

子ども達、作品を後ろにおいて、舞台を一回りし、集会の体形に集まる。

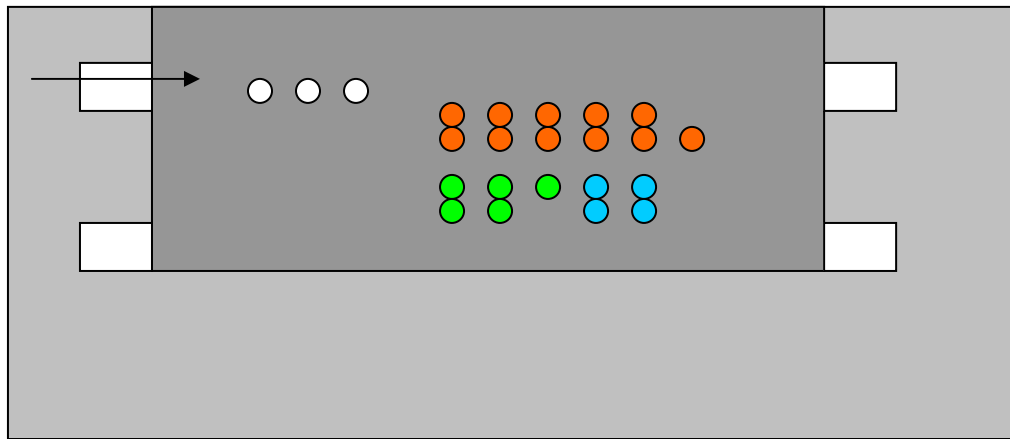


列は、多少みだれているように並ぶ。
後で教頭、担任が、子ども達の間へ入り列を整頓する。

2 場

ホールでの始業式

教頭、担任が、下手から舞台に上がり、乱れている列を直す。
ざわついている子どもたちを静かにさせる。



子ども達が、集会の体形に並んだら、校長先生方が中階段から登場。

教頭先生が、前へ出て話し始める。

教 頭 『おはようございます。みなさーん。元気でしたかあー。2学期の始業式を始めますよー。みなさあーん、たちましようー。』

子ども達、起立。

教 頭 『始業式を始めまーす。校長先生のお話でーす。』

校 長 『座ってください。』
『みなさん、夏休みの前にいっぱい探検しようといいましたね。
みなさん、探検をしましたか。どんな探検をしたのか、とって

も楽しみです。いろんなお話をしに来て下さい。校長室で待っています。』

『さて、さて、とっても楽しい話があります。』

『なんと、転校生があるようです。』

さ や 『えー、ほんとー！』

のりひろ 『そりゃー、めずらしいことやねー。』

あゆみ 『はい！』（校長に名前を呼ばれてから立つ）

校 長 『なんですか、あゆみさん。』

あゆみ 『本当の話ですか。』

校 長 『どうも、本当のようですよ。』（校長の話を聞いて座る）

ともゆき 『はい。』（校長に名前を呼ばれてから立つ）

校 長 『为什么呢。ともゆきさん。』

ともゆき 『どこからくるんですか。』

校 長 『うーん、……。どうも、外国からくるようです。そうですよね、教頭先生。』

教 頭 『はい。アメリカからと聞いています。』

校 長 『そうそう、アメリカです。アメリカの……。どこでしたっけ。』

教 頭 『たしか、シアトルだと聞きましたが。』（ともゆき、座る）

ゆうや 『イチローのおるところやー。』

ゆうや、立ち上がる。みんなを押しつけて舞台前へ出る。
みんな、ゆうやを見る。
イチローのバッターボックスでのまねをする。
みんな拍手をする。

ありか 『そーやそーや、シアトルマリナーズの町や。』

りょうた 『はい。』（校長に名前を呼ばれてから立つ）

校 長 『まだ、なにかあるんですか！りょうたさん。』

りょうた 『何年生ですか？』

校 長 『ええ？？ えーと。うーんと・・・・・・・・。』

教 頭 『はっきりしたことは、わかりませんが……、4年生ぐらいだと
聞いていますが。』（りょうた、座る。）

あゆみ 『いつごろくるんですか。』（中腰で話す）

校 長 『うーん。教頭先生、いつごろでしたかー？』

教 頭 『確か、10月のはじめころと聞いていますが。』

校 長 『そうそう、10月のはじめころです。
転校生がきたら仲良くしてあげてくださいね。』

教 頭 『転校生があったら、臨時の集会をして、みなさんに紹介しまー
す。それでは、これで始業式を終わります。』

5秒間、動きを止めて、
全員下手へ退場する。

照明は、センター1つを残して、4つ
をOFF
役者 退場

第2幕 集会

第1場 ホールでの転校生紹介

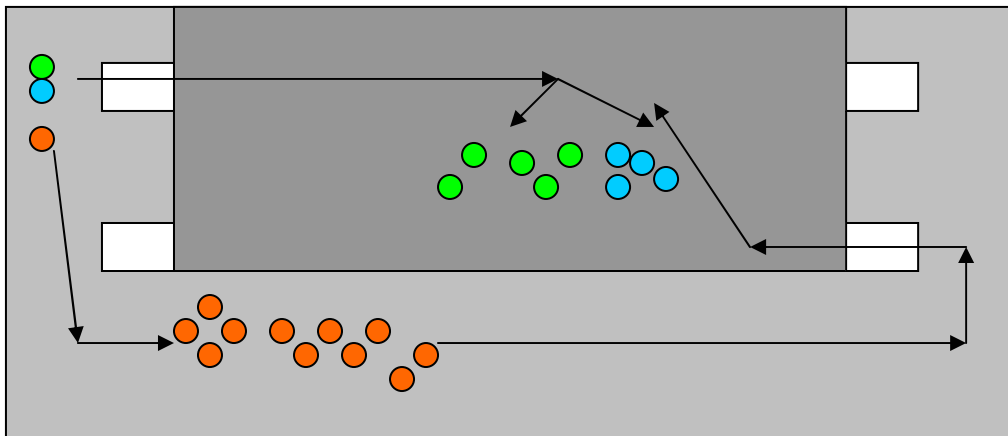
教頭が、校内放送をする。

校内放送 ピンポンパンポン

『いまから、りんじの集会をします。子ども達は、ホールにあつまりましょう。』

5 6 年は、下手から舞台の前を通り舞台へ上がる。
1 3 4 年は、直接舞台へ上がり、集会の形に並ぶ。

構内放送があったら、
照明は、4つを順番に
ON



あゆみ・けん・えり・あづさが、舞台前で立ち止まって話す。
他の高学年は、遊びながら上手外階段から舞台へ上がる。

あゆみ 『今日は、何の集会かいねー。』

けん 『ほらほら、始業式の時言うとした……。』

えり 『転校生やよ。』

あゆみ 『そうや。転校生や。』

けん 『アメリカや言うとったよねー？』

えり 『そー、アメリカやゆうとったねー！』

あゆみ 『そしたら、外人かい。』

けん 『そりゃあ、そうやろー。』

あづさ 『アメリカゆうたら、去年、ようテレビにでとったねー。』

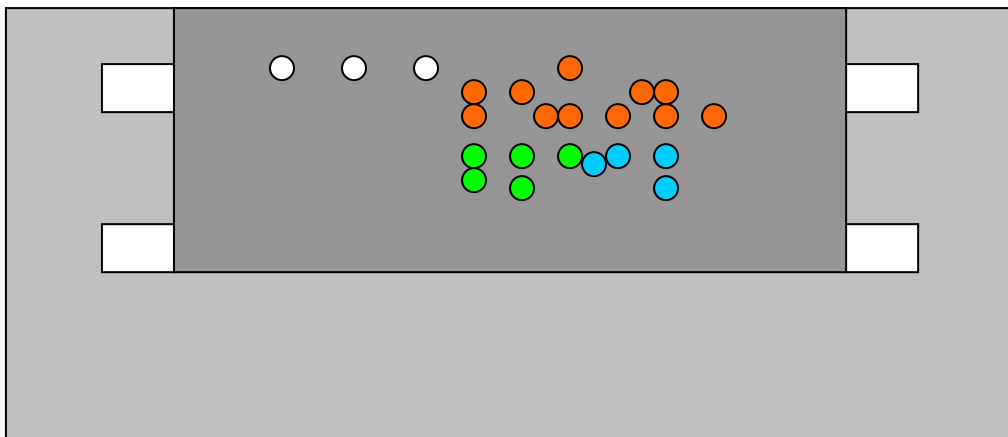
えり 『そうや、えんぴつみたいなビルがくずれたがいねー。』

あずさ 『そうやそうや、びっくりしたよねー。』

あゆみ・けん・えり・あづさは、会話の後、少し遅れて
舞台へあがる。

2 場 先生方が上手中階段から登場。

担任は、子どもたちの方へ行き、注意をする。



教 頭 『おはようございます。今日は、みなさんにたいへんうれしいお知らせがあります。な、な、なんと！アメリカから転校生がありました。』

子ども達、顔を見合わせて、ざわざわ。

低学年、喜んで全員ぴょんぴょんはねる。

ゆたか 『あー、やっぱりアメリカやねー。』

みれい 『イチローのシアトルって言ってたよねー。』

みづき 『せのたかーーい人かなー。』

まさひと 『そやそや、このまえ、えいがで、インデアンみたでー。うまのって、弓もって、きゃっほー、キャッホー言ってたでー。』

ゆうき 『えー、ほんまー。そんなん、こわいねー。』

ゆたか 『アメリカには、しろい人もくろい人も、いろんな人がすんどるよねー。』

みれい 『そうやねー。いろんな人がおるよねー。』

担 任 『わかったわかった。すわってすわってー！』

教 頭 『それでは、校長先生から転校生を紹介してもらいます。』

校 長 『Good morning every body.』

中学年、中腰になって、話す。

みつのり 『なんや、いっとるで。』

さゆり 『なんや、校長先生はりきっとるねー。』

みずき 『今の、英語？』

ひとみ 『あんたら。グンモー エブラバデーもわからんの?』

みつのり 『おまえ、わかるんか。』

さゆり 『うん、わかりますよーだ。』

みずき 『なんていうたん? 教えて、教えて。』

ひとみ 『今のはね、静かにしなさい。って言うたんでーす。』

みつのり 『なるほど。』

みずき 『しー。やね。』

ひ・さ 『しー。やよ。』

シーンとして、校長先生を見る。

校 長 『みなさん、デイビッドさんは、アメリカのシアトルから、来ました。シアトル、みんな、わかるかなー。』

『H i D a v i d c o m e h e r e , p l e a s e .』

デイビッド、上手から登場

みんないっせいに上手を見る。

デイビッド元気よく、登場。

子どもたちは、ざわざわ。

みつのり 『あれー、アメリカ人や言うとったけどー？』

ひとみ 『わがらとかわらへんやん。』

さゆり 『そうやねー。』

みずき 『だけど、アメリカはアメリカやろ。』

ひとみ 『そやね。』

さゆり 『えらいにこにこしとるやん。』

みずき 『わがらとようにとるけど、どこそちがうね。』

みつのり 『うんー。どこそちがうね。』

担 任 『よしよし。さあ すわりましょ。』

校 長 “Everybody, please be quiet.”

高学年は、中腰になって話す。

担任は、立ち上がろうとする子どもたちを座らせる。

さや 『アメリカ人ゆうで、金髪や思うたけどねー。』

のりひろ 『外国人ゆうたら、目も青い思ってたのにねー。』

あゆみ 『わがらと、あんまりかわらんのー。』

ともゆき 『日本語、わかるのかなー。』

ゆうや 『そうねー。わがら、英語ちゅうもんはさっぱりやでねー。』

ありか 『何年生やろのー。』

りょうた 『4年生ぐらいって言うとったよー。』

ゆうや 『そしたら、大きいよねー。』

さや 『家はどこやろのー。』

のりひろ 『友達になれるかなあ……。』

あゆみ 『どうかねー。言葉がつうじんでねー。』

低学年、中学年も、口々に話し出す。

担任は、座らせようと子ども達の所へ行く。

校 長 『Shut up!』

ゆたか 『シャーベットって何ー？。』

みれい 『アイスクリームみたいなのとちがう？』

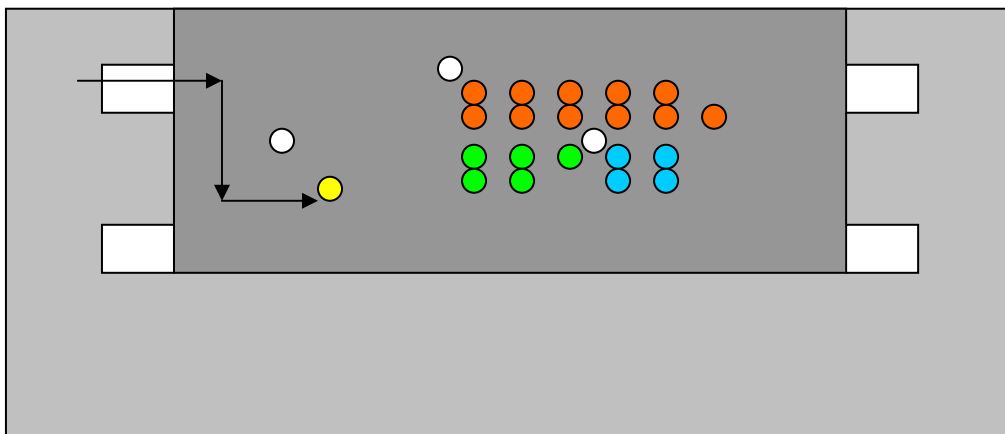
みづき 『この人も、アイスクリーム好きなのかなー。』

まさひと 『英語は、さっぱりわからんねー。』

ゆうき 『そうよねー。』

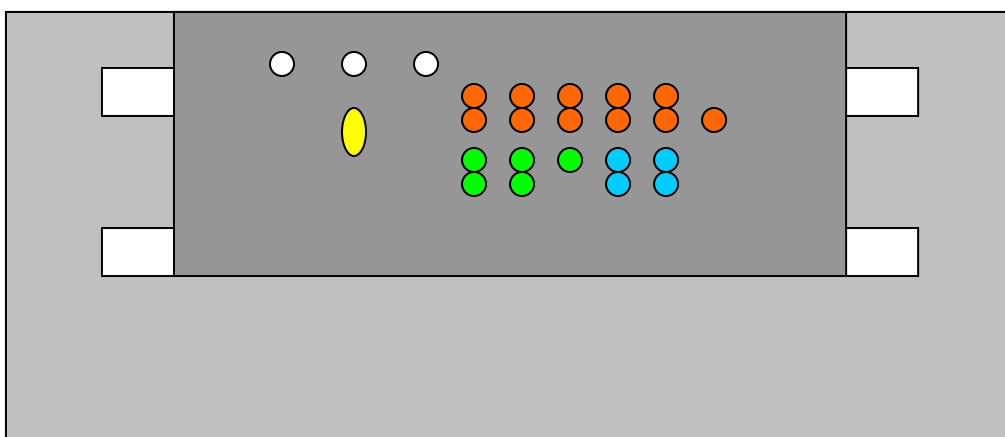
校長 『やかましい。静かに！静かにしなさいって言ってるでしょ。もうー！』

校長 『デイビッドさんです。まだ、日本語ははなせませんが、仲良くしてください。』



3 場

デイビッドの自己紹介



デイビッド、1歩前へ（Hello） 全員、後ずさりする
 デイビッド、もう1歩前へ（Hello） 全員後ずさりして、後ろを向く。
 先生方、あわてて子ども達に近づき、前を向かせる。

デイビッド “Hello. My name is David.”
 “I am from America.”
 “I can't speak Japanese.”
 “Please teach me.”

(英語で早口でしゃべる。)

デイビット、1年生に近寄り話しかける。
握手しようとする。

“Hello.”

『キャー!』 『いやー!』

“Nice to meet you.”

『うわー。きたー!』 『来んといてー!』

校 長 『これこれ、逃げんとなかよくしなさい!』

1年生、舞台下手奥へ逃げ、
下手中階段から退場する。

デイビット、中学年に近づく。

子ども達、いやそうな顔でデイビットを見る

“Nice to meet you.”

“Hello. I am from USA.”

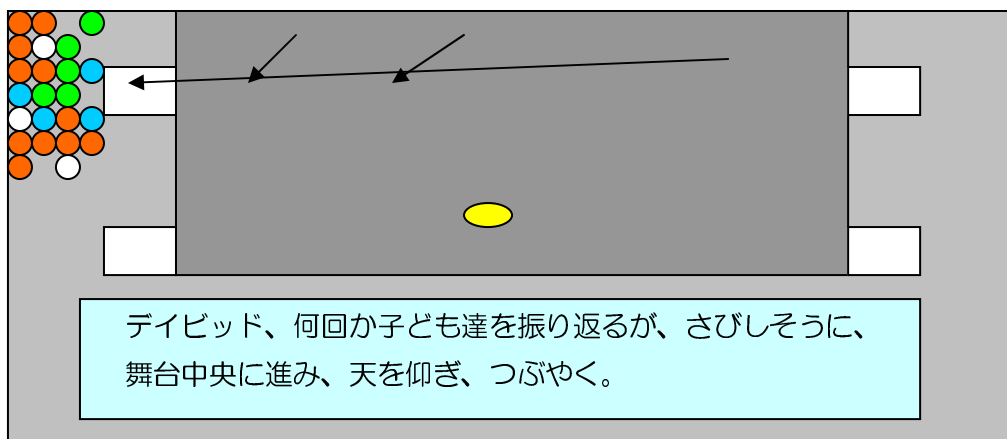
教 頭 『あれあれ、にげんと、あいさつせなあかんがなー。』

口をきかないで、舞台中央奥へ逃げ、
下手中階段から退場する。

デイビッド、高学年に近づく。

高学年、デイビッドが近づこうとすると、みんなが後ろを向いて歩き出す。口をきかず、そろそろと下手奥へ行き、下手中階段から退場する。デイビッド、近づこうとするが、立ち止まってしまう。子どもの1人が、デイビッドを振り向いて、何か言いたそうにするが、そのままみんなと一緒にいってしまう。

担 任 『まあまあ、それはないでしょう。あいさつぐらいしなさい。』



デイビッド 『Oh, my god!』

Oh, my god! の後、
センター1つを残し
4つは、OFF

5秒ほど間を取って、全員下手へ退場

第3幕 大又川の土手

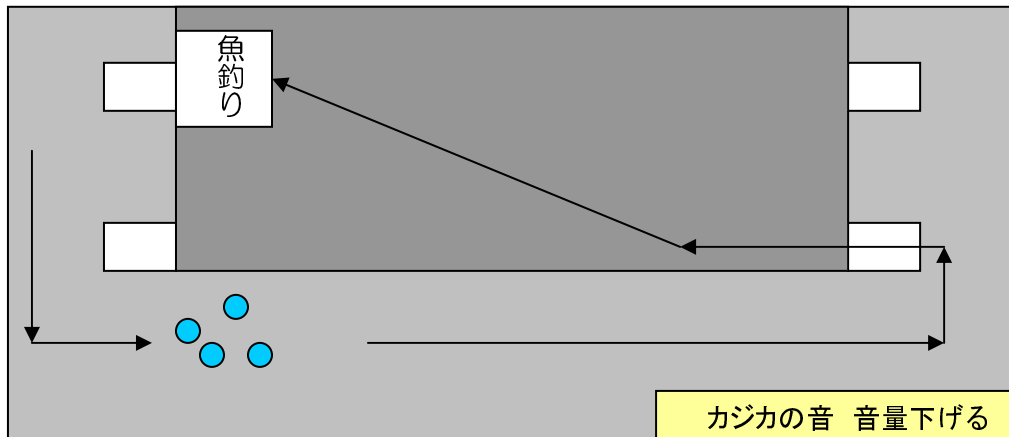
1 場

カジカガエルの声と川の音が、
釣竿を持った子ども達が、下手

カジカの音 フェードイン(10秒)

照明 全部 ON

役者 登場



カジカの音 音量下げる

台詞が聞こえるように

バックグラウンドで小さく

カジカの音

ひとみ 『今日は、どこでつる?』

みずき 『そうやねー。岸ぶちは、どうー。』

さゆり 『あかんあかん。あそこは、うぐいばかりやもん。』

みつのり 『やっぱ、あまごつりたいもんな。』

ひとみ 『鮎もいいよねー。』

みずき 『あほやね。鮎らつれへんで。』

さゆり 『なんで。』

みつのり 『鮎はねえ、おとりを泳がせて、ひっかけるんだよ。食いつかへんのやよ。』

ひとみ 『えー、しらなんだわ。』

みずき 『きのう、上橋のところで、あまご見たで。』

さゆり 『ほんま。』

みつのり 『きまり、上橋へ行こうー！』

3・4全 『そうしよう。そうしよう。上橋だ。』

みつのり 『そうだ！！うなぎのもんどりを とってくる。』

さゆり 『じゃ！はいとりびん持ってくる。』

ひ・みず 『ようし、20センチオーバー、つるでー。』

4人の子ども達、舞台前を通り、上手から舞台へ。
下手へ竿を出してつり始める。

2～3匹釣り上げる

『おー、きたでーきたでー。』

『あらー、ばらしたー。』

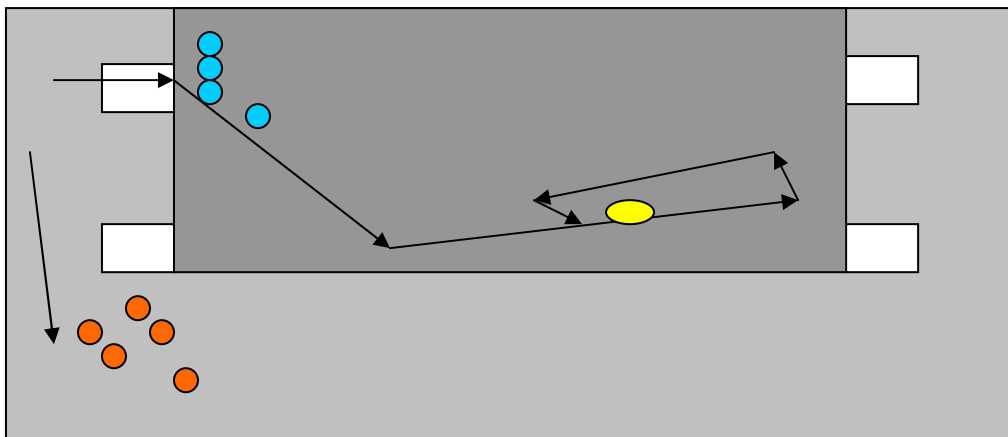
『オー、きたきた.. 今度は、にがさんでー。』

『どうやー。』

『大きいやん。ようーし、私もつるでー。』

デイビッドが、下手から登場して、舞台中央を行ったり
来たりする。
苦しそうな様子。

デイビッド登場
カジカの音 アウト



下手に、子どもの一団が登場する。

中学年が、魚釣りをしているのを見て、声をかける。

あゆみ 『おーい！つれるかー！』

ひとみ 『でっかいあまご、つったでー！』

けん 『川へ落ちんように、気いつけやー！』

みずき 『わかったー。』

下手から舞台前からデイビッドを見つける。

えり 『おいおい。あの外人やでー。』

あづさ 『ほんまや。』

さや 『なんや、あせっとるねー。』

あゆみ 『そうやー。どしたんやろー。』

デイビッド、なんか我慢している様子。つらそうな顔。

けん 『おいおい、だいじょうぶかのー。様子がおかしいでー。』

えり 『へんなやっちゃん。いったりきたりしてー。』

あづさ 『うろうろして、おかしなやっちゃん。』

子ども達を見つけたデイビッドが、近づく。

さや 『うわー、こっちへ くるでー。』

デイビッド、近づいてくる。

デイビッド “I have to go pee.”
“Where ‘s the bathroom?”

あゆみ 『わー。くるなー。』

けん 『わからんちゅうんじゃー！』

高学年が、舞台前を逃げて、上手舞台前に集まる。

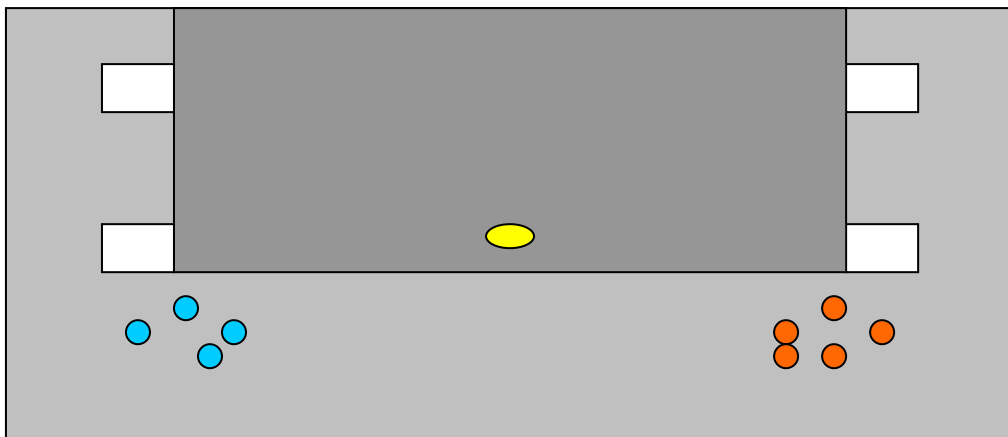
デイビッドは、魚釣りをしている中学年を見つけ、近づく。

デイビッド “I have to go pee.”
“Where ‘s the bathroom?”

下手で魚釣りをしていた4人も一緒になって、逃げ、
下手外階段からおりて、下手舞台前で集まる。

デイビッドは、舞台上から子どもたちに助けを求める。

デイビッド “Please tell me.”
“Where ‘s the bathroom?”



悲しくなったデイビッド、やがて、怒って土をける。

土をけた拍子に、こけて泣き出す。

デイビッド、舞台中央で歌い始める。

デイビッドの歌。(悲しい英語の歌)

トイレを我慢するというだけではなく、

なぜ、私からにげるの・・・・・・・・

どうして私の話を聞いてくれないの・・・・・・・・

という気持ちを表す。

デイヴィッド、歌い終わると、舞台中央でしゃがむ。

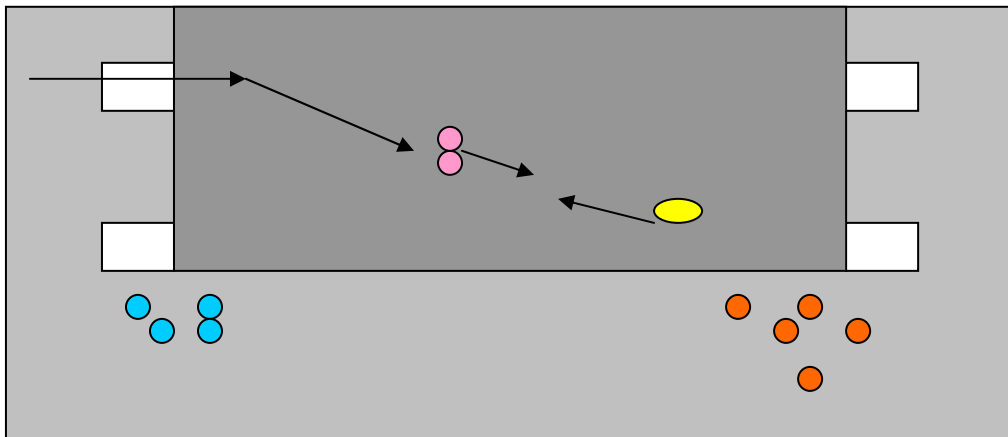
10秒ほど間を取る。

デイビッドが
しゃがみこんだら、
照明は、
センターを1つ残し、
4つ OFF

2 場

おばあさんとおじいさんが、とおりかかる。
デイビッド、座り込んでいる。(舞台中央)
子ども達、上手下手奥に集まって、
デイビッドを見ている。
二人が、座り込んでいるデイビッドを見つけ、近づいていく。

おばあさんおじいさん
が登場したら、
照明 全部 ON



おばあ 『どうしたんじゃ。』

デイビッド、二人に訴える。

“I want to go pee.”

“Is there one around here?”

“I can't wait!”

おばあ 『…………… うーん、うーー。』

おじい 『この子は、太郎さんとこの外国人やがなー。』

おばあ 『そうやそうや。なんやくるしそうやねー。顔色ようないわ。』

おじい 『うーーん。ばあさんや、これは……………。
お便所いきたんとちがうか?』

おばあ 『ええー。おーおー！そうじゃのー。きっとそうじゃ。』

おじい 『おいおい。これかえ。』

おじいさん、おしっこをきばる格好を見せる。
デイビッドも我慢する様子をする。

デイビッド 『Y e s,』

おじい 『やっぱり、そうじゃ。よしよし、うちへ行こう。
すぐ近くじゃ。ついておいで。』

おじいさんは、デイビッドの手を引いて、
急いで下手中階段から退場する。

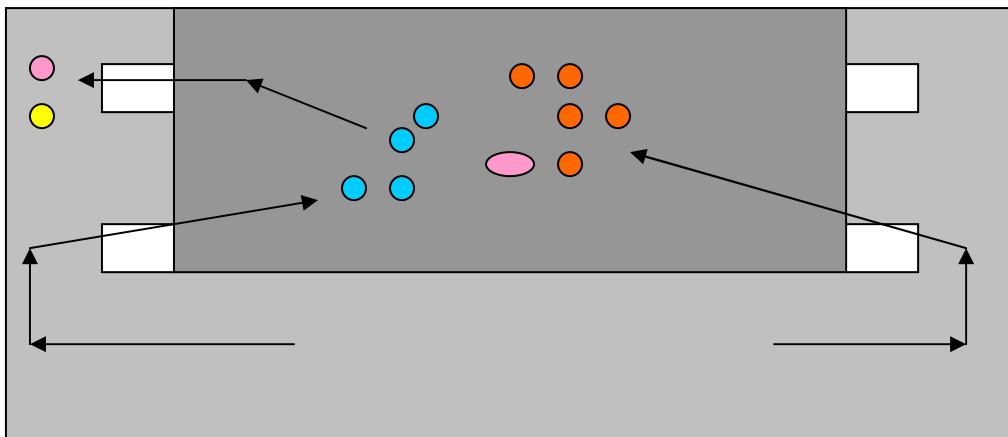
デイビッド “Thank you.”
“Thank you very much.”

おじい 『なんのなんの。さあさ、いそいで。』

二人は急いで、下手へ走り去る。

子ども達、驚いて口をポカンと開けている。

デイビッドとおじいさんが去ると、おばあちゃんに走りよる。



あゆみ 『おばあ、何いうたんじゃ。』

けん 『おじいは、だいじょうぶか。』

えり 『おばあ、英語はなせるんか。』

おばあ 『ふおっ、ふおっ ふおっ。』

あづさ 『なに いうたんじゃ。』

おばあ 『なにも、話しとらんわい。』

さや 『それでも、あの外人、喜んで 走ってったやないか。』

おばあ 『あーあー、おしっこじゃー。』

子 全 『えー。おしっこー。』

おばあ 『そうじゃー。おしっこじゃ。』

『人間のしたいことやおもとることはのう、ようその人間をみればわかる。』

『大事なのは気持ちじゃ。相手のことをわかろうとする気持ちじゃよ。』

ひとみ 『外人もおしっこするんやなー。』

おばあ 『あたりまえじゃ。おしっこもするし、うんちもする。怪我をすれば、赤い血がでる。人間、みーんな いっしょじゃよ。』

みずき 『そうかー。わたしも、あんな時あったなー。』

さゆり 『おしっこがまんするの、むちゃえらいもんね。』

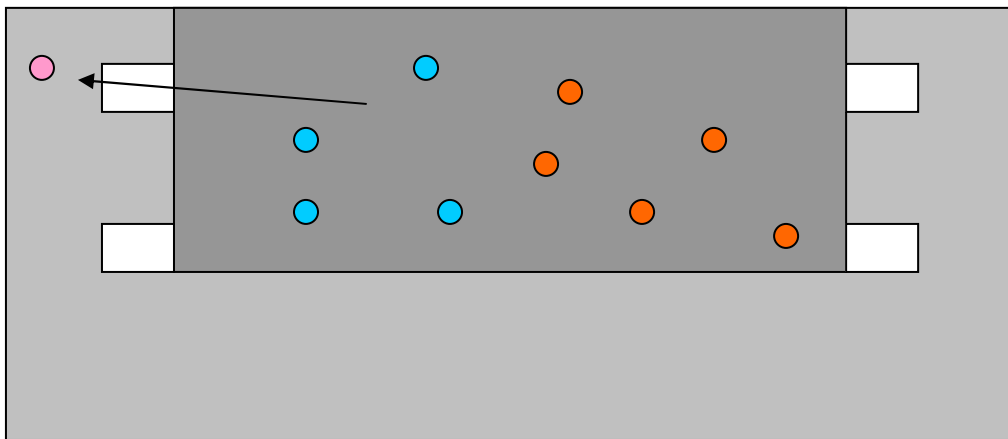
みつのり 『わるいことしたねー。』

ひとみ 『英語をしゃべれんと、気持ちも通じんと思っと思ったけど。』

みずき 『言葉がわからんでも、気持ちはつうじるんやー。』

おばあ 『ひゃっ、ひゃっ、ひゃっ。そんなもんじゃよ。』

おばあちゃん、ドンと胸をたたいて、咳き込みながら下手へ退場。



舞台の子どもたちといっしょに、

幕の中の全員で越えをあわせる。

あゆみ 『大事なことは、相手のことをわかろうとする気持ち。』

子 全 “It ‘s important to understand
other ‘s freeling.”

けん 『相手に近づこうとすること。』

子 全 “To approach others.”

子 全 『そして』

子 全 “To accept others.”

子 全 『相手を受け入れること。』

5秒間止まる

照明 センターを残して 4つ OFF

全員下手へ退場。

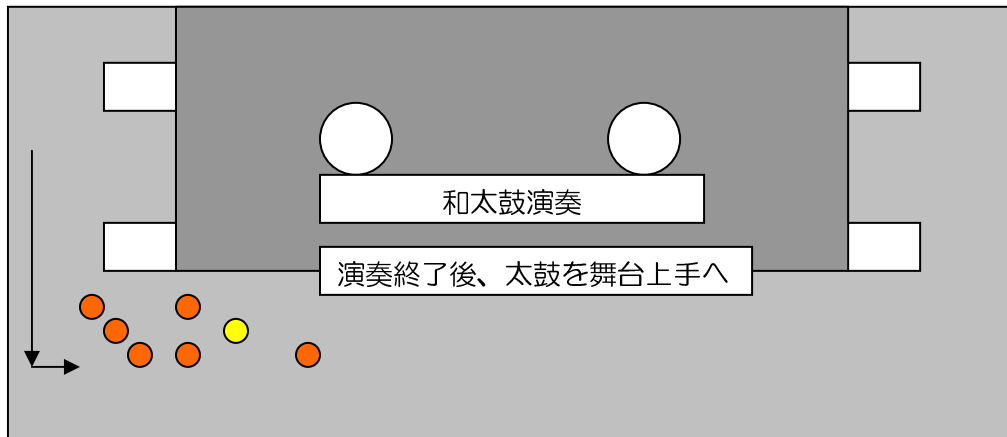
第4幕 飛鳥小学校校庭

1 場

和太鼓演奏

太鼓準備確認後

照明 全部 ON



太鼓を打つ子どもは、中階段から下手へ退場する。

太鼓を片付け出したら『三つ拍子』の音
フェードイン

デイビッドと子どもたちが、なにやら話し
ながら登場。

太鼓を片付けだしたら

照明 センターを残し

4つ OFF

三つ拍子の音 イン

照明 全部 ON

会話が始まったら
三つ拍子音を小さくする

のりひろ “Soon there will be a matsuri.”

デイビッド 『マ ツ リ ？ 』

あゆみ “Yeah, we dance like this.”

太鼓の音が聞こえてくる。

子ども達が、盆踊りの真似をする。(三つ拍子)

三つ拍子の音

大きくする

地域の人も入って

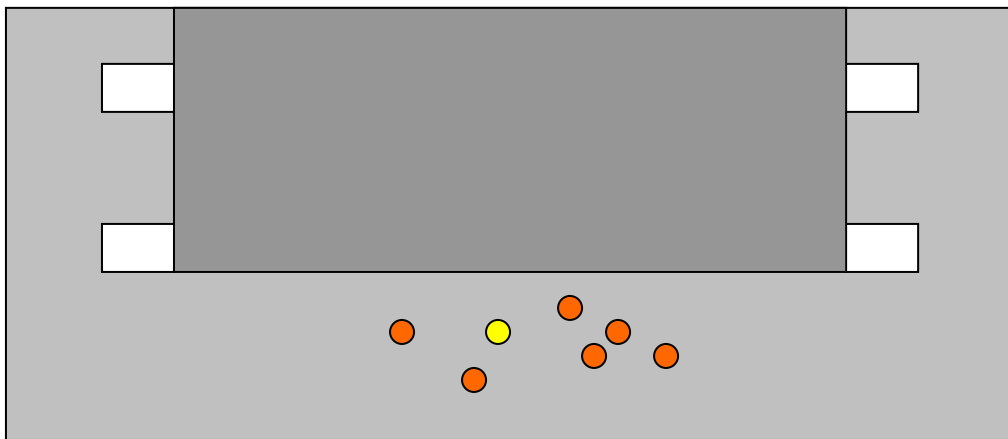
2分程度踊る

デイビッドも真似をする。

話しながら、舞台前で踊りの練習をする。

2分ほど地域の方々も入り三つ拍子を踊る

デイビッド 『おー フェスティバル。 ダンシング!』



ともゆき “Yeah, yeah. Dancing.”

デイビッド 『オーケー。ダンスは、だいすきでーす。』

デイビッドが、ヒップホップを踊りだす。
三つ拍子音アウト

デイビッドがヒップホップを
踊りだしたら
三つ拍子音 アウト

ゆうや “It looks like fun.”

ありか “Is it an American Dance?”

子ども達が、まねをしだす。

デイビッド 『OK。そうです。まねしてください。』

デイビッドのまねをして、おどりだす。

1分ぐらい練習する。

『腕をまわして。』 “Turn your chest.”

『足を蹴って。』 “Stamp your feet.”

『手をたたく。』 “Clap your hands.”

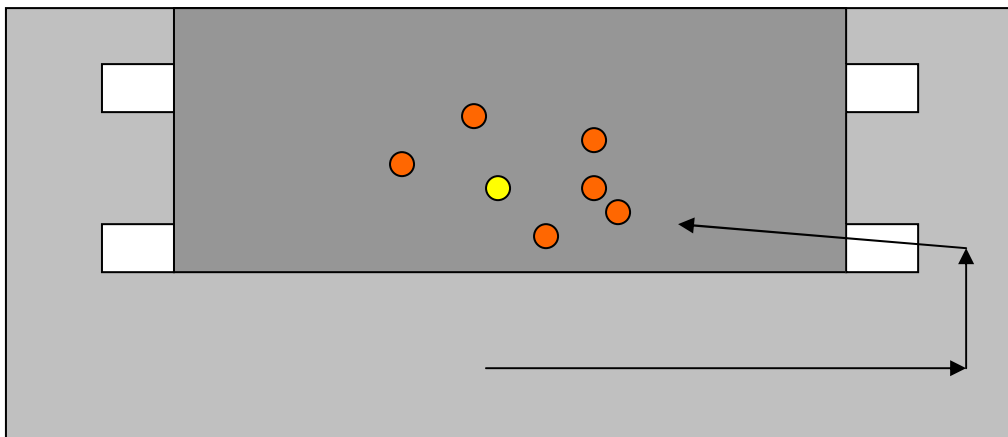
ありゃ ありゃ ありゃりゃー の部分

デイビッドの英語をまねて、英語で言う。

小さくヤートコセの音楽が始まる。

ヤートコセ
小さく
フェードイン

デイビッド、舞台へ上がる。
子どもたちも、舞台へ。



リズムに合わせて、ダンスの練習をする。

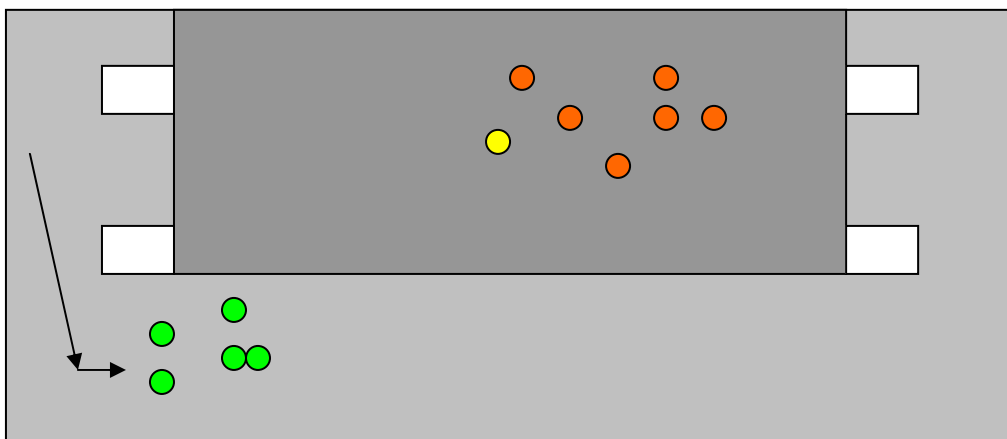
低学年下手より登場

舞台へ上がったら

ヤートコセ音大きく

低学年登場音小さく

低学年が舞台へ音大きく



低学年は、舞台前からデイビッドにはなしかける。

ゆたか “It looks like fun.”

みれい “Please teach me.”

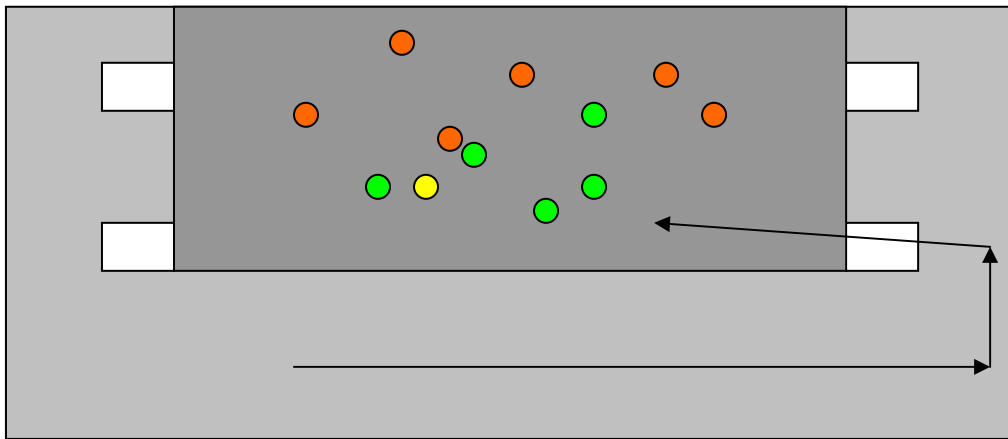
みづき “Me too.”

まさひと “I want to dance with you.”

ゆうき “Let’s dance together.”

デイビッド 『ええよ、ええよ。OK。みんなで おどろう！』
『こっちへ、きてくださーい。』

低学年は、上手外階段から舞台へあがる。



みんなで『ありゃありゃありゃりゃー』をくりかえす

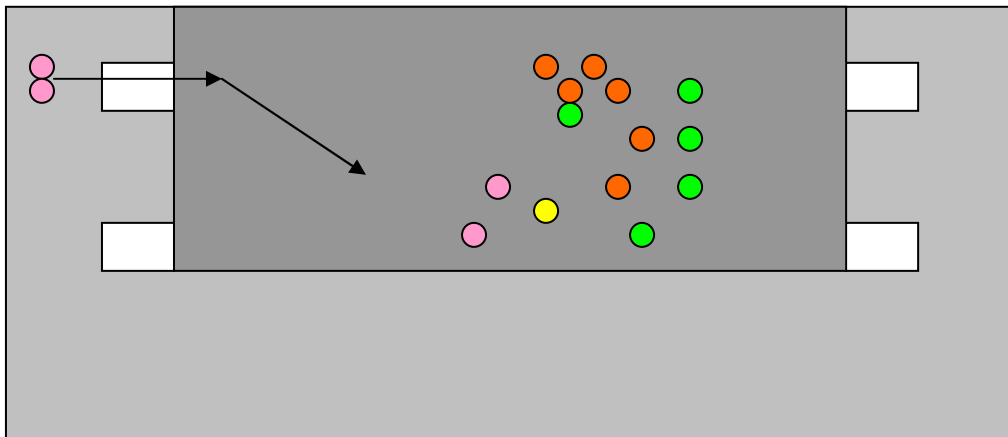
ヤートコセ音、アウト

1分程度練習する。

おばあさんおじいさんが、
登場したら
ヤートコセ音 アウト

2 場

おばあちゃんとおじいちゃん、下手より登場。
二人を見つけたデイビッドが、駆け寄る。
子どもたちもデイビッドの後を追って舞台へあがり、3人の後ろで囲むように位置する。



デイビッド 『グランマ、グランパ、この間は助かりました。本当にありがとう。』

おばあ “No problem. It ‘s natural to help each other.”

おじい “Today will be fun.”

りょうた “Soon there will be a matsuri.”

のりひろ “Now we will teach dancing to David.”

おばあ “Well, that ‘s good.”

おじい “I think so too.”
“Singing and dancing are great.”

あゆみ “When we dance together,
we understand each other.”

ともゆき “Grandma, Grandpa, David ‘s dance
is fun.”

デイビッド、ヒップホップを踊りだす。

デイビッド 『グランマ グランパ。いっしょにダンスしよう。』

おじい “Well, I ‘m too old for that.
No thank you.”

デイビッド 『だいじょうぶ。だいじょうぶ。さあ、いっしょにダンスしよ。』

ヤートコセ音、イン

ヤートコセ音 イン

デイビッドのリードで、みんないっしょに踊りだす。

30秒程度でヤートコセ音、アウト
全員、踊りの途中、動きを止める。

ヤートコセ音 アウト

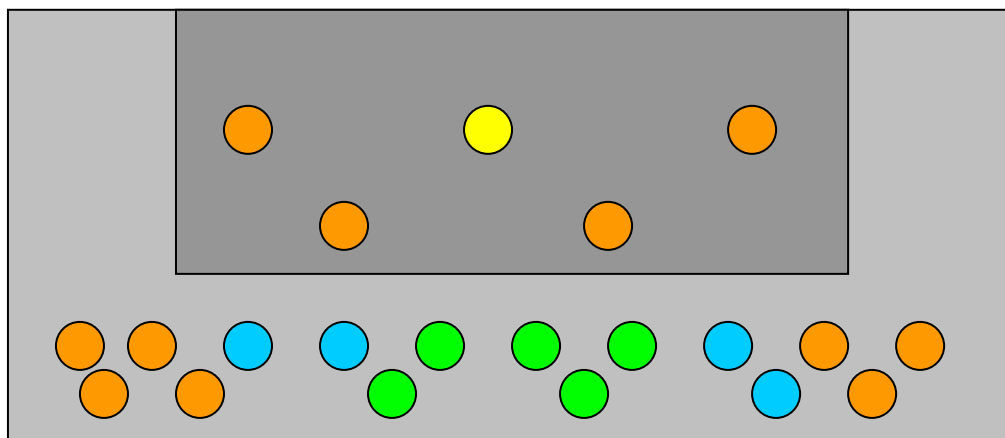
照明 センターを残し

OFF

5秒間とまって、下手中階段から退場する。

フィナーレ

デイビッド、子ども達全員、赤いはちまきをして登場



伊勢ヤートコセを踊る

アンコール

地域の舞踊愛好家、保護者も入って、
もう1度踊る。

舞台へあがり、お礼を言う。(えり)

位置についたら

照明 全部 ON

ヤートコセ音 イン

教頭の呼びかけ

アリーナ照明

全部 ON

地域の舞踏家

配置につく

ヤートコセ イン

清流とともに生きる We live with clean waters

夏が近づくと Summer approaches.

学校のそばの Near the school

大又川から from the omata river,

カジカガエルの鳴き声が the voice of Kajika frog

聞こえてくる can be heard.

澄み切った声が

空に 響き

里に 響き

人に 響く

いつまでも

いつまでも Forever and ever,

清流のままで remain clear.

私達の Our river ,

大又川 Omata.

The end